

# 機関リポジトリの品質保証

土屋俊  
(千葉大学)

# 話題

- 克服すべき課題の分類(あくまで暫定)
  - 技術的問題
    - サイト構築
    - 連携(メタデータ・ハーベスティング)
    - マイグレーション
  - 制度的問題
    - 機関リポジトリの「機関」としての認知
    - 人的資源問題
    - 搭載コンテンツのジャンルと品質
    - 可視性と誘導
    - 継続性(マイグレーション)
    - 権利処理

# サイト構築

- 既成のソフトウェア
  - Eprints
  - DSpace
  - さらにまたいろいろのopen source
  - Endeavor(?)
- オーダーメイドのソフトウェア
- ハードウェア
  - サイトのネットワーク上の位置 (バックボーン？ラン上？)
  - セキュリティとバックアップ

# メタデータハーベスティング

- メタデータの作成
  - 著者作成
  - 図書館作成
- 自分のカタログの位置づけ
  - それそのものとして目録化すること
  - 業績データベースとの連携
- ハーベスティング
  - 中央ハーベスティング
  - 相互ハーベスティング

# マイグレーション

- 著者よりも生き延びなければならない
  - 退職、転職との関係(制度的問題?)
  - 著者の個人ホームページよりも長く
- 出版者よりも生き延びなければならない
  - プラットフォームの変遷
    - 覚悟する必要がある
    - 文書規格の遵守の必要性
- ひょっとして機関よりも生き延びなければならない?
  - 統合、譲渡の許容

# 機関としての認知への努力

- 図書館の気まぐれの事業であってはならない
- 「大学」レベルでの理解
  - 経営者への説得
  - 研究者への説得(学内、学会)
  - 図書館への説得
- 研究協力との連携
  - 学内各種データベースとの連携
  - 外部資金獲得との連携
- 評価事業との連携

# 人的資源問題

- どのような人的資源が必要か
  - コンピュータ操作
  - 制度的側面
  - 対外・対内関係
- どれだけの人的資源が必要か(機関認知的観点からも重要)
  - 専任？
  - 片手間？
  - 外注？
  - その他？

# 可視性と誘導

- どのようにして利用者に認知させるか
  - 学内利用者は著者である
  - 学内利用者はたまたま見つけた人である  
訴えかける対象の特定が困難
- どのようにして対象に誘導するか
  - 主題？
  - キーワード？
  - 全文検索？
  - 著者名？

# 継続性

- 機関としてのコミットメントの確保の必要性
  - 位置づけの理念化
    - 大学がそれを必要とするということの明確な表明
    - そのための資源投下の必要性の明確な表明
  - 担当者の制度化(図書館から独立でもよい)
  - 「マンネリ化」の必要性
- 研究者サイドでの関心の持続
  - 習慣化すること
  - 自覚化すること

# 権利処理

- 著者による著作権管理の不可能性
  - 出版者への譲渡は理不尽ではない
  - しかし、理不尽でもある
  - 必要なのは、「権利処理担当者」
  - 大学が権利処理をする可能性
- 「緑化」問題
  - 認識の共有へ
  - 機関の支援(機関独自統一契約書)
  - 雇用契約レベル

# 品質保証

- 品質保証を機関リポジトリはできない
- したがって、品質保証ずみのものを搭載する必要がある
- それは可視性向上との連携でもある
  - 既公刊論文
  - 他で発表されたもの(上演、講演などなど)
  - 外部資金によるデータベース、報告書
- 筑波大学の電子図書館はなぜ現状のようになっているのか？